

5 小学校中学年用「平城宮跡を守る」 指導例

本資料は、平城宮跡の保存に尽力した郷土の先人、^か棚田嘉十郎を取り上げており、奈良県郷土資料（昭和61年 奈良県教育委員会）に掲載された「大極殿あとに初日が照る」を参考に作成したものである。

棚田嘉十郎については、小学校中学年の社会科副読本「奈良県の暮らし」にも掲載があり、社会科における学習との関連を図った指導が効果的である。展開前段では、資料の記述を基に、平城宮跡保存に自分の生涯をかけた嘉十郎の願いや努力を知り、その行動を支えた情熱を感じとらせたい。また、展開後段では、身近な自分たちの町を振り返り、改めて郷土に目を向け、郷土を愛する心情を高めたい。

◆ **主題名** 郷土を守る 指導内容 中4－（5）

資料名 平城宮跡を守る （奈良県郷土資料 奈良県教育委員会）

◆ **ねらい**

郷土の先人である棚田嘉十郎が、私財をなげうって平城宮跡を守ろうとした努力を知り、その思いについて話し合うことを通して、郷土を愛する心情を高める。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、平城宮跡について話し合う。	○ 平城宮跡を知っていますか。 ・平城遷都1300年祭に行ったよ。 ・社会科の「奈良県の暮らし」に出ていたな。	・自由に話し合わせ、資料への興味・関心を喚起する。	
展 開	2、資料「平城宮跡を守る」を読んで話し合う。	○ 旅人に都の場所を教えることができなかった嘉十郎は、どんなことを思ったでしょう。 ・知らないことが恥ずかしい。 ・奈良を訪れた人々に奈良のことを教えたい。 ○ 過労と栄養失調で目が見えなくなっても、平城宮跡の保存のために力を尽くそうとする嘉十郎をつき動かしていたのは、どんな思いだったのでしょうか。 ・平城宮跡を後の世にずっと残したい。 ・平城宮跡は奈良だけでなく日本の国の人々のためにも守らなければならないんだ。	・都のあとを自分で調べる嘉十郎の姿に着目させ、平城京や奈良に対する嘉十郎の思いに共感できるようにする。 ・初めは人々に受け入れられなかったことや努力の甲斐あって協力者が少しずつ増えてきたこと、単に奈良だけでなく日本の国の宝物であると考えていた嘉十郎の思いなどを押さえ、嘉十郎の行動を支えた情熱を感じとることができるようにする。	

展 開	3、自分たちの郷土について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・きっと平城宮跡保存の大切さを人々は分かってくれる。 ◎ おじいさんの話を聞いたアツコには、平城宮跡がこれまで見てきたものと違うもののように見えてきたのはなぜでしょう。 ・これまでは有名な場所とっていただけだったから。 ・平城宮跡には嘉十郎さんの思いがこめられていると感じたから。 ・今みんなが訪れることができるのは嘉十郎さんのおかげだと知ったから。 ○ 身近な町で大切にされているものや、町のために力を尽くした人のことについて話し合ってみましょう。 ・〇〇の木は一度枯れかけたけど、町の人みんなで守ってきた。 ・△△神社のお祭りは昔からずっと続けられているそうだ。 ・社会科で□□さんのことを調べたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの言葉を手がかりにして、嘉十郎の情熱と努力を知って平城宮跡に対する見方が変わった主人公に共感できるようにする。 ・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、意見交流させてもよい。 ・「もし嘉十郎が今の平城宮跡を見たなら、どんなことを思うだろうか」と問うこともできる。 ・自分たちの郷土を振り返り、郷土について知っていることや考えたことなどを自由に話し合うことで、自分たちの郷土に目を向け、郷土を愛する心情を高めるようにする。 	ワークシート
終 末	4、指導者の話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・郷土のために力を尽くしている人々の話などにより、郷土を愛する心情を温める。可能であれば、ゲストティーチャーとして話をしていたくことも考えられる。 	